

## 熊本地震 被災者の心に寄りそう

# 小さな親切さん 2題

### 出張メガネ店

熊本県と鹿児島県に計4店舗を構えるこだわりのメガネ店「中原眼鏡」の中原哲也代表（52）自身も、熊本地震を経験しました。マグニチュード7の大きな揺れとそれに続く余震により、店舗の壁にはヒビが入り、商品は散乱、什器も壊れるなどの被害を受け、数日間の営業停止を余儀なくされました。

一方、スタッフの一人の実家は、なんと一番被害が大きかった益城町ましきまちにあり、家は半壊、家族は避難所へと



和やかにメガネの調節をする中原哲也代表(中央)

いう状況に直面しました。避難所には年配の方も多いため、中原さんは「老眼鏡の無料提供」と「メガネの調節・クリーニング」のボランティアを思いつきました。工具一式を車に積み、スタッフ2人と共に益城町総合体育館へ。会場のテーブルを借りて、出張メガネ店をオープンしました。

避難所には、慌てて家を飛び出したため老眼鏡がなく困っている人や、片方のレンズが外れたままのメガネをかけて過ごす人も……。さまざまな救援物資が届く中、メガネ屋さんならではの救いの手に、被災者の皆さんは驚きと喜びで迎えてくれました。

中原さんたちは、店の商品とメーカーから提供された計約60点の老眼鏡を無料で提供するほか、メガネの修理や調整に励みました。曲がったメガ

ネはかけにくく使いづらいもの。専門家にしかできない修理は、避難所で過ごす町民の小さな不便を解消し、緊張でこわばった心をほぐしたようです。

「メガネが使えないと、新聞や情報紙などの大事な情報が入ってこないで、困るんですよ」と中原さん。

避難所では情報が命。メガネ屋さんでなければ気づかない、できない対応で、たくさんの方々に変喜ばれました。

### がまだせ熊本

熊本県宇城市にある県立松橋まつはし支援学校の児童生徒125名は、熊本地震で被災した方々を少しでも元気づけようと、手作りの「復興祈願メッセージカード」45セットを宇城市に贈呈しました。

メッセージカードは教員と生徒会が話し合っ、全校生が力を合わせて作った力作。「がまだせ熊本」（がばれ熊本）、「負けんバイ、熊本は笑顔でのりこえよう!!」などオリジナルメッセージと、くまモンなどのイラストを描いたはがきサイズの



宇城市長(後列右)にメッセージカードを贈った生徒のみなさん

カードを作り、専門学科工芸科で作った木製フレームに入れました。

作品は、市役所や避難所、県内高速道路SA、JR熊本駅、松橋駅、各施設や店舗に置かれ、被災者を励ましていきます。

高等部専門学科工芸科3年生の山田翔真さんは、「自分たちに今できることをして復興につなげたい」と思っていた。今後もよい工芸作品をつくり、熊本の人を笑顔にしたい」と、決意を新たにしていました。